

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 27 年度

事業所番号	2793300084		
法人名	株式会社 小池介護サービス		
事業所名	グループホーム花園南		
所在地	大阪市西成区花園南1-13-24		
自己評価作成日	平成 27年 3月 15日	評価結果市町村受理日	平成 27年 5月 14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2793300084-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 27年 4月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達スタッフはホームに笑い声の絶えない生活をして頂けるように支援しています。その為にもスタッフ・利用者様同士のコミュニケーションを大切にしています。時には、利用者様同士がお互いを気遣い、利用者様がスタッフに対して親のように「身体大丈夫？無理したらダメよ」など心ある言葉をかけて下さいます。一人一人が孤立する事なく、自分達の思い・考えを伝える事ができ支え合いながら生活しています。日々の暮らしの中で利用者様の、笑い声・笑い声・キッチンでは楽しそうに料理をしている姿を大事にし家庭的で安らぎがあり、利用者様の気持ちに寄り添いながら支援しています。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)

医療法人を母体とする事業所は、駅や商店街が近くにある利便性の良い立地に建てられた開設4年目になる3ユニットのグループホームです。「私たちは、いつも心がけています・笑顔がいっぱいのホーム・主体性を尊重し、その人らしい生活を送れるホーム・地域社会と共に家庭的な安らぎのある生活をしていただきます」を理念とし、日々ケアを行っています。管理者は、職員の育成に力を入れており、内部・外部研修に積極的に参加する機会を設けています。特に食事についてこだわりを持ち、「家庭的な手作り」「野菜や魚」を中心とした献立は、利用者から「いつも美味しい、幸せや」と好評を得ています。また、「野球観戦に行きたい」「喫茶店に行きたい」「銭湯に行きたい」等、利用者の願いを叶える個別ケアの支援が進んでいます。できることは職員に権限移譲することで、職員のやる気を引き出しています。利用者の奏でるアコーディオン、歌声、おしゃべり、ダンス等、笑顔の絶えない事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をタイムカードの上に掲げ、出勤時必ず見るようにしています。毎日の業務を通して方針を共有し、介護サービスに繁栄させるよう話し合っています。	管理者や職員は、理念を事業所の運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。玄関入口や事務所内にあるタイムカードの上に掲げ、職員の出勤時には必ず確認できるよう、工夫をして理念の共有をしています。理念の一つである「笑顔」をキーワードにして、サービスの実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域との交流に努めています。自治会に加入。ホームでの行事に地域のボランティアが歌やダンスを披露する等、利用者との交流を図っています。毎月第3土曜日のふれあい喫茶に参加しています。	ホームでは、自治会に加入しています。毎月第3土曜日には、地域ボランティア活動の「ふれあい喫茶」へ数名ずつ参加をしています。喫茶ではぜんざい等の手作りのものを購入し、地域住民と一緒に食事をして、会話を楽しむなど、交流が進んでいます。管理者は、今年度地域に向けて「認知症予防講座」を開催していく予定をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアを通じ、ホームに来て頂いた際、理解支援の方法を提案しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センターの職員、町会長、民生委員、利用者、家族の参加のもとで2ヶ月毎に実施しています。会議ではホームの運営状況や行事、職員の研修内容や避難訓練の予定等を説明しています。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回開催しています。参加者は、家族、自治会長、地域包括支援センター職員、事務長、管理者、職員等となっています。会議内容は、事業所からは現状報告(行事計画、行事報告、職員研修、事業所からのお知らせ等)をしています。委員からの意見や要望・助言があり、貴重な情報交換の場となっています。今年度は、各委員と共に「認知症予防講座」の勉強会を検討していく予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当職員とは相談や情報交換を実施してサービス向上に取り組んでいます。	区の職員とは、都度連絡を取って相談、助言を得ています。事故報告については、市に対して速やかに報告書を提出しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1年に2回の身体拘束廃止委員会を開催し、その際に玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアとは何かを正しく理解するように努めています。	身体拘束をしないケアの実践に努めています。交通量の多い道路に面した建物1階入り口は、施錠をしています。事業所は3・4・5階が生活の場となっており、各階入口はそれぞれに防火扉のドアで施錠しています。しかしながら、開錠時間を決めて手動で対応する取り組みが始まっています。利用者は、エレベーターで職員と各階に行き来をし、交流を図っています。外出を希望する利用者には、職員が付き添って出かけています。	今後、玄関は日中、利用者が出入りしやすいよう開錠する等、工夫することが望まれます。また、施錠に対する利用者のストレスについて職員間で話し合い、検討することが期待されます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスにも配慮し、心に余裕を持ち利用者と接することができるよう配慮し防止に努めています。 1年に1回以上虐待防止の研修を開催しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度やあんしんサポートを活用している方がいるので機会があるごとに話し合っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居に際しての説明は充分行っている。利用者や家族の疑問点は契約前、契約時に話し合い理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会だけでなく介護計画作成時にも話し合い、家族の思いや希望、不満を表せるように対応しています。又、意見箱も設置しています。運営推進会議の後ご家族様と個別にお話しできる時間を設けています。2ヶ月に1回ホームでの様子・お薬・往診等の情報を送り、要望等記入して頂く欄も設けています。	管理者や職員は、利用者や家族の意見・要望等が事業所の運営、利用者支援に大切なことと理解しています。家族には、「広報誌、運営推進会議録、利用者の情報等」を2ヵ月毎に送付しています。その際には、家族からの要望を聞く欄も設け、意見を言いやすい工夫をしています。家族の面会時にも意見や要望を聞き、運営や日々の支援に繋げています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行った際に職員の意見を聞き、又、提案はその都度聴いてサービスに反映させています。 個別に相談、意見を聞く機会も設けています。	管理者は職員の育成に力を入れ、職員と共に「笑顔の絶えない」事業所を目指しています。毎月のフロア会議、全体会議、不定期の主任会議等で闊達な意見交換を行い、業務に反映させています。職員の提案で、日常の買い物や小さなイベントの経費、生活必需品等については、職員が即対応できるようになった事例があります。年1回の面談時や春・秋の親睦会等、職員が意見を表出しやすい機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働けるよう研修等に参加できるような体制作りをしています。スキルアップの為に長期休暇明けにも対応し、向上心を持って働けるよう配慮しています。非常勤から常勤への昇格。主任、管理者への昇格。子育て支援等の職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修の機会を多く【緊急時対応】【認知症】【感染症】のテーマについても研修を受講しています。採用時研修も実施しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内にあるグループホームの交流だけでなく、同区内のグループホーム同士の自主的な連絡会に参加し、情報交換や交流を行っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の暮らしの中で利用者の行動・言動に重点を置きながら、コミュニケーションを図り不安な事、要望等に耳を傾け安心感を持って頂けるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には定期的に生活状況・身体状況を、お手紙でお知らせして不安な事を相談できる環境、関係作りを築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴など家族から話を聞き本人が生活していく上で何を必要としているかを見極め優先すべきサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に笑い、作る、食べるを大切にして家庭的な雰囲気の中で本人の個性をホームで活かしていけるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員間で利用者の情報交換を行い利用者をどのように支えていくかを共に考え意見交換することで安心して生活が送れるように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡、友人の来訪などの継続、利用者の馴染みのスーパーや喫茶店など外出支援を行い馴染みの方との談話を大切にし関係が途切れないように支援しています。	管理者や職員は、利用者にとって馴染みの関係を継続することの大切さを認識し、支援にあたっています。以前から利用者が通っていたモーニングサービスを提供する喫茶店へ出かけたり、スーパーに出かける等しています。遠方からの友人や近隣の知人の訪問があり、交流を図っています。また、家族と墓参りに出かける利用者もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味、特技などを把握し個々のコミュニケーション、皆さん一緒にレクリエーションの時間を大切に、その中から生まれる友情や信頼関係を大切にしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても近くに来られた際はぜひお寄り下さい等の言葉を必ず伝え訪問しやすいよう配慮を行い連絡、訪問時に相談があった時は協力し必要であれば他の施設の紹介もしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「私の気持ちシート」を活用し、一人一人の思い、悩み、希望の把握に努めています。困難な場合は、日頃の行動、表情を細かく観察し本人の視点に立って話し合い検討しています。	「私の気持ちシート」を活用し、利用者一人ひとりの願いや要望の把握に努めています。願いや要望は、毎年更新してシートに記入しています。職員は利用者の生の声を丁寧に聞きとり、詳細を具体的に記入しています。「野球観戦に行きたい」「皆に看取られながら逝きたい」「散歩に行きたい」「喫茶店に行きたい」等、職員は利用者本人の思いを大切にしており、願いを叶えるため計画を立て支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに入所するまでの生活歴、生活環境などを家族、支援者から聞き利用者が今まで築き上げてきた環境を大切にしていける中で、自分らしく暮らしていけるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活リズムを一人一人把握し、その中で得た情報などで利用者の変化などに気づき利用者が安心して生活していけるかを職員間で意見交換し現状の把握に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で利用者の声を大切にして利用者の思い、願いなども反映させた介護計画を作成し家族の説明、本人の同意を得ています。モニタリングに関しては、新たな要望等踏まえながら支援しています。	計画作成担当者は、介護計画書を原則6ヵ月毎に見直しをしています。利用者に変化がある際は都度見直します。3ヵ月に1回モニタリングを行い、担当者会議によるカンファレンスは6ヵ月毎に実施しています。会議には利用者、家族、看護師、職員等が参加しています。介護計画書は、家族、利用者に説明し、同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者別の排泄、水分、バイタル表などの記録をしています。業務前には、利用者の体調、様子など申し送り情報を共有しています。 月1回はフローア会議を行い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体病院の医師と職員として配置されている看護師から医療と看護を受けています。又いつでも家族が宿泊できるように部屋も確保されています。地域のボランティアによるレクリエーションの支援を受けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒に買物に外出支援を行い本人が、何が欲しいかを考え選んで頂けるようにしています。 又利用者が金銭のやりとりが出来るように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、母体病院の医師による往診、週1回の医療連携を受けています。 又治療科目によっては入所前からのかかりつけ医療機関から引き続き医療を受けている利用者がいます。	1ヵ月に2回、母体法人の病院から医師の往診が受けられます。また、週1回医療連携の看護師によって利用者の健康管理を行っています。眼科による検診や歯科医師による口腔チェック等、希望者は月に1回、往診を受けることができます。利用者や家族の希望により、入居前からかかりつけの医療機関も継続し、職員同行で受診している利用者もいます。緊急時には、看護師による24時間対応が可能です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の生活の中での身体の変化時は看護師に相談、受診が受けられるように支援しています。月2回の小池外科往診時に個々の体調や様子を伝え適切に受診が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体病院からの情報提供以外に日々の様子を外来受診の際に伝えていきます。又入院した際は既往歴や現在治療中の病気やADLを詳しく伝え早期に退院できるように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族には看取り実践の方針を説明し、同意書をとっています。終末期のあり方については早い段階から、利用者、家族と話し合い意向を聞き事業所に出来る事を説明行い意向の確認をし地域の関係者と共にチームで支援し取り組んでいく予定です。	重度化した場合の対応については「看取りの指針」を作成し、入居時に利用者本人、家族へ説明を行い、同意書を交わしています。利用者が入居後重度化した場合には、再度家族に意向の確認を行い、希望に沿った支援を行います。職員には、「看取り介護」について研修を行っています。看取りを希望する家族には、家族用の宿泊部屋を準備し、終末期ケアを行う支援体制を整えています。しかし、現在のところホーム内での看取りは実施していない状況です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時に備えて、施設内研修で看護師による応急手当、初期対応の実施をしています。又消防士による心肺蘇生法やADEの訓練を受けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、利用者が安全に避難できる方法・確認。 年2回消防職員指導のもと災害費訓練を実施しています。 非常、災害時の食料と水の備蓄をしています。	年に2回、消火訓練・避難訓練を実施し、利用者も参加しています。うち1回は消防署の協力を得て、防災・避難訓練について具体的な指導も受けています。今回は、夜間を想定した訓練も実施しています。運営推進会議の中で提案のあった地域での防災訓練に、事業所として参加を予定しています。今後は、地域からの協力も得られるよう、声かけをしながら自治会との連携を図っていきたいと考えています。「災害マニュアル」を作成し、水、缶詰、レトルト食品等、非常用食品を倉庫に備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人を尊重し、職員は言葉のかけ方、態度には注意し誇りやプライバシーを損ねないように親しみやすい雰囲気です。 又施設内研修でプライバシー保護について説明を行っています。	「プライバシー保護」の研修を実施して職員の意識を高めています。「言葉使いについて」の研修も具体的な言葉を使って、職員間で実施しています。職員はいつも穏やかな声で、その人らしさを尊重した丁寧な態度で利用者と接しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーション、話しやすい環境などを作り、利用者の言葉に耳を傾け思いや希望を聞き自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護していく上で何が必要で何を優先すべきか、職員は理解し利用者のペースを思い安心して過ごしていただけるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の散髪では、利用者にどんな風にしたいか一緒に考えています。 その日着たい服装を選び自己決定できるように支援しています。 イベント時は化粧をしたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の希望を取り入れ、ホームで調理を行っています。材料なども利用者と一緒に買い物に行き野菜など共に選ぶ時間もつくっています。 準備や片づけも共に行う事で家庭的な雰囲気を作り大切にしています。 好き嫌いも把握し嫌いメニューの時は別の食事を提供しています。	食事は、3食とも各フロアで調理しています。メニュー作りは、各フロアで週単位の職員が担当し、利用者の好みを取り入れながら作っています。食材は、利用者と共に近くのスーパーへ買い物に出かけます。利用者は自分のできる範囲で野菜の下ごしらえ、食器洗い後の片付けなど、職員と一緒にしています。調理の仕方や味付けは、各フロアで利用者の好みや状態に合わせて行っており、利用者からも好評です。利用者の健康に配慮し、野菜中心のメニューとなっています。しかしながら、魚料理も安全のため、骨を取り除いた調理法で食べやすく、利用者に喜ばれています。外食、お弁当作りやおやつ作り等も楽しんでいます。時には、近くの喫茶店へ出かけて、モーニングサービスを利用します。職員は、見た目に品があり、おいしそうに見える料理を利用者に提案しています。利用者より「おいしい」と喜んでもらえるよう、工夫を重ねて料理作りに努めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	個々の利用者に対し、食事量、水分量 を確認し記録しています。状態に合っ た食事形態食器など工夫したりして支 援しています。食事目で見えて楽しめ るように工夫しています。 水分は細目な水分補給を心がけてい ます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日の歯科往診を受けていま す。毎食後の口腔ケアを行い、夕食後 には薬剤による義歯洗浄を徹底してい ます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し一人一人の排 泄パターンを把握しています。 立位ができる利用者はトイレにて排泄 が出来るように心がけています。 又安心して排泄ができ能力に応じて排 泄の自立に向けた支援をしています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握 し、利用者の能力や習慣を考慮する中 で自立に向けた支援を行っています。 車椅子とオムツを使用の利用者が、入 居後歩行器とリハビリパンツを経て、シ ルバーカーと布パンツになり、自立で きた事例があります。また、介助や見 守りをする際、利用者がゆったり気持 ちよく排泄できるよう、声かけには特に 留意しています。通路奥のトイレには、 ドアに呼び鈴を付ける等、安全対策を 行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	母体病院と連携し、毎日の排泄の記録をし、排泄の把握に努めています。日頃から身体を動かしたり、散歩など便秘予防をしています。食事にも野菜や乳製品を多く摂れるように心がけています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人が入浴できるように入浴時間を決めずゆとりある入浴をしています。服装選びも一緒に行い入浴中も利用者と会話しながら楽しい入浴時間を心がけています。希望がある時は同性対応も支援しています。	利用者は、週2～3回、主に日中に入浴していますが、利用者の希望に合わせた回数や時間帯に入浴できる体制を整えています。入浴を好まない利用者に対し、朝食前入浴を勧めることで解決した事例があります。数種類の入浴剤を日替わりで使用をし、ユズやショウブなど季節のお風呂を楽しむ工夫を行っています。立位の難しい利用者は、キャリーチェアを使って浴槽に浸かることができます。また、利用者の希望に合わせて、毎日リビングで「足浴」を実施し、喜ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活のリズム、体調面も考え自由な休息できるように支援しています。眠れない利用者にはスタッフと一緒に会話しながら安堵感を感じ眠れるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体である小池外科と医療連携をとっており、薬の目的や副作用、用法や用量について指導を受けています。服薬時担当も徹底しており確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのコミュニケーションを大切にし、服を買いたい、散歩に行きたい、喫茶店に行きたいなど希望時は希望にそえるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「私の気持ちシート」を活用し希望を聞いたりコミュニケーションの中で「ここに行きたい・食べたい」の希望に沿って支援しています。料理が好きな利用者と一緒に食事を作ったり一人一人に応じた支援をしています。	日常的な外出支援としてゴミ出しを兼ねた散歩や、近所のスーパーへ食材の買い出しに出かけています。また、年間行事として実施している春のお花見や秋の遠足その他、「私の気持ちシート」に基づいて、利用者一人ひとりの希望に沿った外出支援として、芝居見物や野球観戦、寿司屋や喫茶店に出かけています。また、地域で行われる月1回の「ふれあい喫茶」に参加し、利用者の外出する機会が多くあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行く際は利用者と同行し欲しい物を選んで頂き清算できるように支援しています。又買い物希望時は、お金を所持し買い物に行けるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族と話をしたい希望があれば、いつでも電話できるようにしています。家族様からお手紙が届いた時は、本人に手渡し読みにくい時は代行して読んでいます。返事もできるようにペンと便箋を貸出し家族様とやり取りが出来るように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者と一緒に作った作品を飾り、ホーム内居ても季節が分かるように毎月飾りに工夫しています。 廊下には、利用者の写真を飾ったり楽しいと感じて頂けるように工夫しています。ホーム内はピンクを基調として落ち着いた雰囲気になっています。	南向きに窓がある居間兼食堂は明るく、中央にあるカウンターキッチンからおいしそうな料理の匂いが立ち込めます。随所に五月人形、クラフトなど、季節を感じさせるインテリアを取り入れ、壁には職員が手作りのパッチワークのカレンダーや利用者の書道作品、笑顔の写真などを飾り、家庭的な雰囲気を醸し出しています。現在は、椅子中心の生活のため、空間の一角にコタツを置く等、「床に座る空間」も検討中です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が思い思いの場所に座りくつろげるようにリビングの椅子は固定せずどこでも座れるようにしています。 ソファを設置しゆっくり談話出来るスペースを設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の経部屋は本人が一番くつろげる空間である事を理解し。利用者が昔から使用していたタンス、鏡台、畳、ぬいぐるみなどがあり安心して過ごせる個性的な部屋となっています。	事業所では、クローゼット、エアコン、電動介助ベッドやカーテン、布団、また必要に応じてポータブルトイレも設置しています。利用者が昔から使っていた、家具や愛用の品を置くよう勧めています。そのため、タンスやテレビ、鏡台、仏壇、人形等、趣味の品々を持ち込み、思い思いの時間を送っています。全フロア共通で行う歌の時間には、居室から愛用のアコーディオンを持参し、いきいきと演奏する利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の得意分野を把握し、それらを活かせるように利用者同士が分野ごとにグループを作り同じ共通点の会話しながら楽しめるように工夫することで意欲や自信、喜びに繋がるように支援しています。		